

早稲田大学国語教育学会設立50周年記念CD

早稲田大学国語教育学会活動記録

目次

・例大会一覧・機関誌目次資料(1963年11月～2014年1月例会)	1
・事務局メンバー一覧	6
・凡例	7
・ジャケット作者紹介	8

年	月	日	大会	テーマ	所属等	発表者・講師	備考	号	タイトル	副題	著者
1963	11	1		語学教育と国語教育	早大	白石 大二	1963.10 設立総会開催				
昭38	12	2		たどりよみ方式鑑賞はありえない	早大	時枝 誠記	会長：時枝誠記				
1964	1	3		評論文の教材研究 —加藤周一の「日本文化の雑種性」(明治書院「現代国語」巻二)	竹台高	久米 芳夫					
昭39	4	4		機能文法か体系文法か 中学校の文法教育	中野八中	楠木 昌平					
	5	5		「文学教育」私見—いわゆる文学の授業について—	早大	鳥越 信					
	6	6	大会	「現代国語」と文学教育 現代詩教材を主とした実際指導例 古典文学教育の問題点	小平高 横須賀大津高 早稲田高	東郷 克美 昆 豊 橋本 勇					
	7	7	座談会	講演 教壇四十年	早大	安藤 常次郎					
	9	8		■国語教育の現状の声を交換する ■漢文教育における二、三の問題点 —漢文入門篇—如何にしたら漢に興味を持たせ得るか、漢詩についてなど—	千歳丘高 船橋高	氏橋 一 山崎 一類					
	10	9		文学作品の指導過程(教材は壺井栄「坂道」)—文学作品の主題の上よりの指導を中心にして—	荒川九中	谷野 小枝子					
	11	10		■教育実習の体験と今後の課題	早実教育実習生 早実教育実習生 早実教育実習生 早実教育実習生 早実教育実習生	学生 羽田 喜久男 学生 松井 俊 学生 橋本 洋介 学生 神田 厚 学生 越智 敬	※文学部・国語部で、早実にて教育実習を行ったものによる発表である。				
1965	1	11		古典入門—「今昔物語」をいとぐちとして—	早大	櫻井 光昭					
昭40	2	12		「現代国語」と短歌	早実	羽山 力					
	4	13		説明的文章の読解 —桑原武夫の「文学入門」をめぐって—	竹台高	菊野 和夫					
	6	14	大会	シンポジウム ■受験と国語教育	早大 近代文学研究家 昭和女子大 武蔵高 東工大附属工高	紅野 敏郎 司会 草部 典一 村松 定孝 佐々木 啓之 山崎 正之					
	7	15	座談会	■国語教育の壁	早大学院	小路 一光 司会					
	9	16		高校作文教育の問題点	長野県立上田高	東 栄蔵					
	11	17	早大国語学会との共催	言語生活	早大	時枝 誠記					
1966	1	18		「現代国語」におけるグループ学習	青山学院高等部	米田 千鶴子					
昭41	4	19		「現代国語」教材私見 —「走れメロス」最後の一句をめぐって—	東工大附属工高	岡本 卓治					
	5	20		勤労青年と国語教育 一定時期工業高校の場合—	港工高	川合 道雄					
	6	21	大会	■「平家物語」の授業(主題と形象) —「木曾最期」をめぐって—	都立大附属高	紅野 敏郎 司会 難波 喜造					
	7	22	座談会	■現時国語教育界の問題点 —わが会の課題をさぐりつづ—	早大	榎原 正昭					
	10	23		ことばと機械	国立国語研究所	石綿 敏雄					
	11	24		古典入門 —中一から高校への古典導入—	千歳丘高	小相 二郎					
	12	25		学校図書と国語教育	早大学院	伊藤 助松					
1967	1	26		古典読解指導 —「宇治川先陣」をめぐって—	千歳丘高	三沢 育夫					
昭42	4	27		中学校における一読総合法について —永井竜男「黒い御飯」をめぐって—	葛飾区立四ツ木中	田島 伸夫					
	5	28	早大国語学会との共催	言語過程の検証について	早大	時枝 誠記					
	6	29	大会	ひとつの実践—肢体不自由児の国語教育—	都立光明養護学校 都立光明養護学校	掛下 初夫 長沢 文男					
	7	30		講演 生きた生活・生きた文章 読書教材の扱い方 —「隅田川」を中心に—	早大	作家 豊田 正子 小林 保治					
	9	31		■教育実習をふりかえって	早大教育学部4年生 早大教育学部4年生 早大教育学部4年生 早大教育学部4年生	学生 草山 和男 学生 土屋 仁 学生 萩原 康正 学生 日高 昭二					
	10	32		聴き方教材とその指導	練馬高	角田 旅人					
	11	33		漢字指導の一試案	早大	三浦 和雄					
	12	34		「阿部一族」の読み方	跡見女子短大	中村 完					
1968	2	35		「枕草子」における清少納言の漢籍の素養	早実	矢作 武		1968.2「早稲田大学国語教育学会会報第1号」発行	時枝先生と早稲田大学国語教育学会 学問と教育実践との接点	川副國基	
昭43	4	36		古典教材論・徒然草(一)「徒然草」指導への一提言	早大学院	伊藤 隆	1968～1970 学習指導要領改訂	1	古典の現代語訳 三重吉「古事記物語」をめぐって ひとりごと	白石大二 山崎正之 久米芳夫	
	5	37		古典教材論・徒然草(二)「徒然草」語法上の問題点	竜ヶ崎二高	佐藤 秀					
	6	38	大会	■古典教材論・徒然草(三) 「徒然草」第一三七段をめぐって 「徒然草」試論 「徒然草」と当代語	前橋高 中央大 早大	田辺 明義 塚本 康彦 白石 大二	1968.6「早稲田大学国語教育学会会報第2号」発行	2	評議の方法になやむ 我観つれ丸草 「徒然草」演習ノート 「十月の頃……」	中村徳治 佐々木八郎 内田守紀 金子隆俊	
	7	39	座談会	■国語教育の現場から	早大	榎本 隆司 司会 紅野 敏郎 司会					
	9	40		現代国語の諸問題(一) 副読本の製作と活用	早大 和光大 武蔵高 秀英出版 麻布学園	野本 秀雄 佐々木 啓之 金森 良之 栗坪 良樹	1968.9「早稲田大学国語教育学会会報第3号」発行	3	時枝先生の思い出 国語教育と国語研究 教材探策行 編江 晋 (ローカル通信) 岩手の人々	榎本昌一 今井卓爾 奥津春雄 朝倉敏子 佐藤陽二	
	11	41		高木市之助「刻銘」(『古文芸の論』所収)をめぐって —「記録」教材の意義—	都教育研究所指導主事	中村 格					
	12	42		時枝誠記博士の学問における非国語学的なもの	早大	白石 大二					
1969	2	43		現代国語の諸問題(二) 中島敦の「山月記」の主題とその扱い方	都立日本橋高	鈴木 醇爾	1969.2「早稲田大学国語教育学会会報第4号」発行	4	先生のカード 人間の復活 (ローカル通信) 純粋ということ	三浦和雄 杉野要吉 山口毅	
昭44	4	44		「枕草子」における機智の段の扱い方	女子聖学院	岡田 潔	1969.4「早稲田大学国語教育学会会報第5号」発行	5	「目には青葉山ほととぎす初巻」考 「山月記」拾遺 教師七年目の繰りごと	安藤常次郎 中村亮 米田千鶴子	
	5	45		近代短歌の扱いかた二、三	早大	武川 忠一	1969.6「早稲田大学国語教育学会会報第6号」発行	6	近世文学における貨幣価値の問題 特集・万葉集 教科書の万葉集 特集・万葉集 万葉集の学習を終えて 国文学科生が持っている古語辞典類を調べてみて 特集・万葉集 万葉集の指導について	興津要 戸谷高明 広多建次 岩淵匡 内藤啓 山本昌一	
	12	46	大会	■万葉集の諸問題 万葉の「場」—その扱いかた二、三— 人麻呂における「死」 東歌における労働民謡 伊勢物語における連体形に関して	早大学院 成城大 早大	都倉 義孝 中西 進 谷 馨	日米安保闘争の影響のため中止	7	副題ということ 竹取翁歌と竹取物語 古代の旅 (職場通信) 放課後	今井卓爾 奥津春雄 朝倉敏子 佐藤陽二	
1970	2	47		中学校における国語科指導上の問題 —主として作文の領域について—	新宿区教委指導主事	長田 和雄	1969.12「早稲田大学国語教育学会会報第7号」発行				
昭45	5	48		「枕草子」の指導をめぐって	早大	中野 幸一					
	6	49	大会	講演 人麻呂における「死」 額田姫王を偲ぶ	成城大 早大	中西 進 谷 馨	1969.6大会中止の代替				
	7	50	座談会	■教壇三ヶ月	県立平塚技術高 早実 吉祥女子高 藤村女子高 都立江戸川高 村山一中 都立墨田川高	河野 芳夫 中島 国彦 小林 啓子 鈴木 孝庸 北爪 幸夫 吉田 道子 片山 亨	1970.7「早稲田大学国語教育学会会報第8号」発行?(未確認)				
	10	51		志賀直哉「鶴沼行」 —その展開について—	京北高	内田 守紀					
	11	52		小説教材の研究 太宰治「富嶽百景」	東海大附属高	堀江 晋	1970.11「早稲田大学国語教育学会会報第9号」発行	9	悠然見南山について 国語教材としての柳田国男 小説教材「鶴沼行」をめぐって 教材研究 伊勢物語	大矢根文次郎 石田尚 内田守紀 原昭平	
	12	53	座談会	■小説指導の問題点	早大学院	東郷 克美 司会					
1971	1	54		漱石教材の問題	早大	紅野 敏郎					
昭46	5	55		教材の文体論的扱い —「山月記」を中心に	東工大附属工高	山本 昌一					
	6	56	大会	講演 国語教育をめぐって 国語教育雑感	立正女子大 早大名誉教授	松隈 義勇 佐々木 八郎	1971.6「早稲田大学国語教育学会会報第10号」発行	10	文語文法についての雑感 【教材研究】「山月記」について 漢詩学習の試み	榎本光昭 山本昌一 小林保治	
	7	57		丸山薫「未来へ」をめぐって	早大学院	竹田 日出夫					
	9	58		教室で読む朝太郎 —その実践の前に—	早実	中島 国彦					
	10	59		中原中也「朝の歌」	東工大附属工高	大屋 幸世					
	11	60		詩を教材としてどう扱うか	立正女子大	原 子朗					
	12	61		俳句を教えるということ	成城大	山下 一海					
1972	1	62		近代短歌の扱い方 —啄木を中心に—	都立日野高	山田 平	1972.1「早稲田大学国語教育学会会報第11号」発行				
昭47	4	63		竹取物語の取り扱いかた —古典乙1入門編において—	早実	奥津 春雄					
	5	64		伊勢物語の取り扱いかた	早大	上野 理					
	6	65	大会	講演 機械と人間	早大	高木 純一					
	7	66		古代文学の指導 —古事記・倭建命をめぐって—	早稲田高	黒川 光					
	10	67		漢文教育五十年	早大	大矢根 文次郎					
	11	68		平家物語の扱い方 —「橋合戦」の表現を中心に—	都立江戸川高	北爪 幸夫					
1973	1	69		読者の変遷(資料展示) 明治の国語読本	東横女子短大	長谷川 敏正					
昭48	5	70		漢文入門における一、二の問題	早実	鈴木 義昭					
	6	71	大会	講演 教材としての近代短歌	実践女子大	木俣 修					
	10	72		説話文学の教材をめぐって —「宇治拾遺物語」を中心に—	早実	小峯 和明					
	11	73		日記文学の教材をどう扱うか —更級日記を中心に—	早大	津本 信博					
	12	74		国語教材としての『源氏物語』 —明治書院版、古典乙IIをテキストとして—	東横女子短大	石原 昭平	1973.12「早稲田大学国語教育学会会報第12号」発行				
1974	1	75		—小説教材—『心』について	茅ヶ崎北陵高	平松 直子					
昭49	4	76		—『大鏡』をどう扱うか—	東工大附属工高	根本 歌三					
	5	77		思想単元「老子」の取り扱い方	早大	柳瀬 喜代志					
	6	78	大会	講演 言葉と真実	詩人	長田 弘					
	9	79	早大国語学会との共催	国文法の打消語と漢字の否定語について	早大	滝沢 俊亮					
	10	80		坪内逍遙の小学読本について	早大学院	院生 出佐 共四郎					
	11	81		万葉集の教材と授業についての所感	早大学院	内藤 馨					
	12	82		古事記 倭建命の扱い方	早大学院	後藤 良雄					
1975	1	83		中学国語教科書の現状	練馬区立大泉中	安東 洋子					
昭50	4	84		国語教育と日本語教育	早大	坪井 佐奈枝					
	5	85	大会	講演 「現代国語」指導上の問題点	都立国国高	堀内 武雄	1975.6「早稲田大学国語教育学会会報第13号」発行	13	日頭発表要旨 日記文学の教材をどう扱うか 日頭発表要旨 小説教材「こころ」について 日頭発表要旨 思想単元「老子」の扱いかた 日頭発表要旨 漢文否定語の研究 日頭発表要旨 坪内逍遙「国語讀本」について	津本信博 平松直子 柳瀬喜代志 滝沢俊亮 岩佐社四郎 細川修	
	9	87		近代俳句の鑑賞方法について	立正女子高	瓜生 鏡二					
	10	88		中学生のための教材研究	富士中	太田 良夫					
	12	89		伊藤整「青春」について	駒場高	朝倉 敏子					
1976	1	90		芥川龍之介「羅」について	早実	石割 透					
昭51	4	91		必修クラブ活動「文芸研究」を担当して	明星学園	西澤 正彦					
	5	92		俳句教育の問題点	都立田園調布高	福田 光家	1976.5「早稲田大学国語教育学会会報第14号」発行	14	日頭発表要旨 『万葉集』その教材と授業についての所感 日頭発表要旨 「古事記」倭建命の扱い方 日頭発表要旨 わたしの教科書診断 日頭発表要旨 国語教育と日本語教育 日頭発表要旨 「読み」に対するさまざまな考え方と方法 日頭発表要旨 現代俳句の鑑賞方法について	「日本書紀」との関連において 安藤洋子 坪井佐奈枝 堀内武雄 瓜生鏡二 石割透	
	6	93	大会	講演 軍記物語と説話文学	山梨大	西尾 光一					
	7	94		中学生の作文教育	早実	川平 均					
	9	95		教材としての『沈黙』	京北高	風間 益人					
	10	96		日本近代文学の特殊性	成城大	高田 瑞穂					
	11	97		虚構をどう教えるか	早大学院	岡本 卓治					

年	月	期	大会	テーマ	所属等	発表者・講師	備考	号	タイトル	副題	著者
1977	5	100	大会	文学教育の前提	都留文科大	関口 安義	1977～1978 学習指導要領改訂				
				読解と鑑賞をつなぐもの	都教委委員長指導主事	山崎 賢三					
				むかしと今の国語教育	作家・評論家	杉森 久英					
				日本の話芸漫談	早大	磯崎 康隆					
1978	1	103	大会	中学校における私の国語指導法	豊島区立千川中	仲田 喜三郎	1978.6「早稲田大学国語教育学会会報第15・16合併号」発行				
				KJ法による文章要約指導の試み	早大	町田 守弘					
				文学の受容・鑑賞・研究について	国文学研究資料館	長谷川 泉					
				国語教育とコンピューター	山崎 一夫	山崎 一夫					
1979	5	110	大会	多様化時代の教育課程 —新学習指導要領について—	都教委委員長指導主事	山崎 賢三	1979.3「早稲田大学国語教育学会会報第17号」発行				
				国語学習指導方法の改善 —視覚教材の活用をめぐる—	都立向丘高	菊野 和夫					
				石山寺本一切経の訓点について	早大	築島 裕					
				古典の歌語と現代の歌語	早大	辻村 敏樹					
1980	1	113	大会	漢文教育における語法・語彙・文字の問題について	早大	寺村 政男	1980.7「早稲田大学国語教育学会会報第18号」発行? (未確認)				
				教育実習生の指導を終えて	県立神奈川工高	院生 遠矢 龍之介					
				複眼的思考について	早大	駒田 信二					
				私の児童文学	児童文学者	古田 足日					
1981	6	118	大会	国語教材としての新美南吉の作品	早大	鳥越 信	1981.3「早稲田大学国語教育研究第1集」発行				
				学校演劇または演劇教材の扱い方について	維新ヶ谷中	高瀬 隆昌					
				学習材としての近代短歌	早稲田高	橋本 喜典					
				古典入門期の教材	蒲田高	佐藤 勝明					
1982	1	121	大会	回想・早稲田校壇の国語学者	早大	白石 大二	1982年より代表委員制 (ノボリ-の詳細は表末)				
				国語教育三十年	徳島文理大	奥津 春雄					
				海外における俳句の受容	早大	佐藤 和夫					
				『徒然草』を教える	明大中野高	松丸 政雄					
1983	6	127	大会	生きたる『国語I』 —古典及び表現—	都立赤城台高	佐野 齊孝	1983.6「早稲田大学国語教育研究第3集」発行				
				『誕生門』の作文指導	海城学園	春田 裕之					
				『誕生門』の作文指導	都立桜町高	古井 純之					
				『誕生門』の作文指導	都立立川高	杉原 和弘					
1984	1	131	大会	青年教師時代をふりかえって —「北方教育」の級方教育運動—	早大	清川 道夫	1984.6「早稲田大学国語教育研究第4集」発行				
				近代短歌史の断面 —空穂・敦本など—	早大	武川 忠一					
				正岡子規の三つの句について	早大	安藤 常次郎					
				古典の授業で何を教えるか —生徒の実態に即して—	川崎南高	長野 和範					
1985	4	132	大会	「国語I」で表現をどう扱うか —総合性・関連性を生かすために—	早大	町田 守弘	1985.6「早稲田大学国語教育研究第5集」発行				
				夏目漱石「こころ」の読解指導	都立赤城台高	飯田 幸男					
				体系的な漢字指導の一試案	明星学園	内藤 哲彦					
				漢字テスト —採点する側・される側—	都立神代高	山本 昌弘					
1986	1	141	大会	表現の現在	作家	高井 有一	1986.4「早稲田大学国語教育研究第6集」発行				
				楽しい古典の時間への試行錯誤	都立中野高	村井 朱夏					
				教室での「舞姫」	都立府中東高	鈴木 醇爾					
				暮らしの中の民話	俳優	沼田 曜一					
1987	1	146	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	1987.6「早稲田大学国語教育研究第7集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
1988	1	151	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	1988.6「早稲田大学国語教育研究第8集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
1989	5	157	大会	古典文法指導の一視点	早大	栗山 俊彦	1989.6「早稲田大学国語教育研究第9集」発行				
				教材としての鶴外	京華中高	矢部 彰					
				これからの読書教育	青山学院大	江野沢 寿子					
				これからの国語教育	大妻女子大	斎藤 義光					
1990	1	161	大会	教材をどのように体験させるか —短歌教材の場合を中心に—	駒場東邦中高	芳澤 隆	1990.4「早稲田大学国語教育研究第10集」発行				
				生徒の発言を中心とした詩の授業	渋谷区立広尾中	福田 美枝子					
				■「紙間精舎」・「木曾勘次郎」	前田流山甲山午門下	橋本 敏江					
				現代文教材と課外活動	早大本庄高等学校	高橋 聡					
1991	1	166	大会	『徒然草』新教材の発掘 —第百三十六段・二百三十二段をめぐる—	横浜市立戸塚高校	村上 春樹	1991.6「早稲田大学国語教育研究第11集」発行				
				神奈川県立川崎高講師	神奈川県立富岡高講師	星野 智也					
				神奈川県立富岡高講師	神奈川県立富岡高講師	星野 智也					
				神奈川県立富岡高講師	神奈川県立富岡高講師	星野 智也					
1992	1	166	大会	視点映す表現	早大	中村 明	1992.6「早稲田大学国語教育研究第12集」発行				
				和歌教材の扱いをめぐる	早大学院	兼兼 信行					
				古典の授業への取り組み —生徒に興味をもたせるために—	戸田市立美笹中	中西 由紀夫					
				教材としての「走れモロス」 —隠された物語あるいは心情主義批判—	武蔵工大付中高	須貝 千里					
1993	1	166	大会	太宰治・根源への旅	成城大	東郷 克美	1993.7「国語教育と実践に学ぶ会」第1回研究会				
				修学旅行と運動した国語の授業 —文学研究と紀行—	都立一橋高	野村 敏夫					
				■国語教育の課題	江戸川区立清新二中	田島 伸夫					
				現代文教材と課外活動	早大本庄高等学校	高橋 聡					
1994	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	1994.6「早稲田大学国語教育研究第13集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
1995	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	1995.6「早稲田大学国語教育研究第14集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
1996	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	1996.6「早稲田大学国語教育研究第15集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
1997	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	1997.6「早稲田大学国語教育研究第16集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
1998	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	1998.6「早稲田大学国語教育研究第17集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
1999	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	1999.6「早稲田大学国語教育研究第18集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2000	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2000.6「早稲田大学国語教育研究第19集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
2001	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	2001.6「早稲田大学国語教育研究第20集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2002	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2002.6「早稲田大学国語教育研究第21集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
2003	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	2003.6「早稲田大学国語教育研究第22集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2004	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2004.6「早稲田大学国語教育研究第23集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
2005	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	2005.6「早稲田大学国語教育研究第24集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2006	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2006.6「早稲田大学国語教育研究第25集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
2007	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	2007.6「早稲田大学国語教育研究第26集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2008	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2008.6「早稲田大学国語教育研究第27集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
2009	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	2009.6「早稲田大学国語教育研究第28集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2010	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2010.6「早稲田大学国語教育研究第29集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
2011	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	2011.6「早稲田大学国語教育研究第30集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2012	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2012.6「早稲田大学国語教育研究第31集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					
2013	1	166	大会	国語教材としての芸術論・文化論の扱い方	中央学院大附属中央商業高	斎藤 好司	2013.6「早稲田大学国語教育研究第32集」発行				
				文学の世界に目をひらく読みの授業	江戸川区立小松川一中	田島 伸夫					
				■国語科教科書における現代文教材をめぐる —その現状と将来—	成城大	東郷 克美					
				現代文教材と課外活動	大塚船橋店国語教科書編集部	高田 信夫					
2014	1	166	大会	国語教育の系譜	東京学芸大	田近 浩一	2014.6「早稲田大学国語教育研究第33集」発行				
				中学校の古典教育 —その実状と問題点—	中央区立四中	山崎 章					
				「竹取物語」の読みをめぐる	海城学園	小垣 貞夫					
				表現学習とその指導	東京都教育研究所主任指導主事	深澤 忠孝					

年	月	期	大会	テーマ	所属等	発表者・講師	備考	号	タイトル	副題	著者	
1993	1	174		書籍と日記 ―漱石・荷風・志賀・芥川― ―研究と教育の両立―	早大	紅野 敏郎			新課程の国語科教育と授業改善 挑発する『羅生門』		大平浩哉 関口安義 石割透	
95	5	175		新しい学力観に立つ古典(中学校古文)の学習指導 人間論としての漢文指導	船江市教育委員会指導主任 相模女子大	宮崎 浩志 矢作 武	1993.6「早稲田大学国語教育研究第13集」発行	13	芥川龍之介の小説『鼻』 (実践報告)		大塚大蔵 堀内雅人	
	6	176	大会	「言語の教育」と「現代語」 「分析批評」と国語教育	聖徳栄養短期大 横浜国立大	山崎 賢三 井関 義久			「短歌指導の実践」 見出しづけの授業 (現場からの報告)	生徒主体の授業への試み	大塚大蔵 堀内雅人	
	10	177		文字から音声表現へ ―解釈の体系化のための指導計画― 音声言語指導法の開発	都立町田高 お茶の水女子大附属中	長 りえ子 田中 亜也子			(会員便り)	岡田潔/橋本結花	藤原律子	
1994	1	178		海外帰国生徒・外国人生徒に対する日本語及び国語の授 帰国生を通して考える国語教育における国際理解 ―話し言葉から書き言葉への学習の試み―	都立国際高 東京学芸大附高大泉校舎	飯田 幸男 加藤 康子		14	(講演) 書籍と日記―漱石・芥川・志賀・荷風― 明治期話話しことば教育の展開 『伊勢物語』第六段の教材本文	研究と教育の両立	紅野敏郎 高野光男 土佐秀里 伊藤博	
	5	179		朗読を柱とする現代詩の授業 ―「統一テスト」条件下での指導の一例― 教科書俳句について思うこと	目白学園中高 早大	浅田 孝紀 瓜生 鐵二			「統一テスト」条件下での指導の一例 論理的思考力を伸ばす指導の体系化 (現場からの報告)	海外子女のための寄宿学校の場合	浅田孝紀 境 匡	
	6	180	大会	寺山修司の土着性 寺山修司のこと	早大	小林 保治 佐佐木 幸綱	1994.11「早稲田大学国語教育研究第14集」発行		(紹介) 榎本隆司編『教科教育研究 国語』 例会発表要旨		岩崎洋	
	10	181		■芥川教材の再検討 「羅生門」再考 中学校教材における芥川―「トロッコ」を中心に―	駒沢短期大 川崎市立大東中	石割 透 伊藤 博						
1995	1	182		最終講義 国語教育と文学史	早大	藤波 嘉造			(講演) 転換期の女性像 (講演) 国語教育と文学史 (特集・寺山修司)	近世から近代へ	奥津要 藤波嘉造	
	5	183		シンポジウム ■国語教育とは何か	早大 東京大 都立工業高専 早大 都立北園高	大平 浩哉 小森 陽一 高野 光男 岡村 達司 横堀 利明	1995.4 大学院博士後期課程開設 1995.6「早稲田大学国語教育研究第15集」発行	15	寺山修司のこと 初期寺山作品の郷土性 (論文)		佐佐木幸綱 小林保治	
	6	184	大会	第一部:研究授業 高古典『伊勢物語』「筒井筒」 中一現国 中村桂子「花があれば自然？」	早大 早大	小西 淳夫 細田 貴子			朗読を柱とする現代詩の授業 論理的思考力を伸ばす指導の体系化 (現場からの報告)	「統一テスト」条件下での指導の一例	浅田孝紀 境 匡	
	11	185		第二部:研究協議 関心を喚起する試み―「黒い雨」の実践授業― 「黒い雨」の自然と反自然	早大 早大	市毛 勝雄 町田 守弘 星野 智也 東郷 克美	指定討論者		(書評) 矢部彰著『国語教室の窓』 例会発表要旨		千葉俊二	
	1	186		『枕草子』「二月つごもりごろに」の段をどう扱うか	早大講師・早大大学院 院生	松島 毅			(論文) 『枕草子』「二月つごもりごろに」の教材化について 遠藤熊吉の国語教育理論に関する考察 戦争文学教材研究序説(その2)	精神の近代化を目指した言語の教育 中村格の実践を起点として	松島毅 小原俊 大平浩哉	
1996	4	187		特別講演 古典の授業―体験させる技術― (ビデオ「『万葉・古今・新古今』の授業」を使って)	早大	市毛 勝雄	1996.3「早稲田大学国語教育研究第16集」発行	16	研究授業 自然とのふれ合い 考えさせる古典の授業 関心を喚起する試み インタビューによる『現代語』の実践報告 (シンポジウム・国語教育とは何か)	思考の過程を共有する 『伊勢物語』「筒井筒」をめぐる 「黒い雨」の実践授業	細田貴子 小西淳夫 星野智也 熊谷芳郎	
	6	188	大会	第一部:研究授業 高古典『大鏡』「花山天皇の出家」	早大	久恒 二郎						
			第二部:研究協議		早大	津本 信博 山下 勇人	指定討論者					
	11	189		言語感覚を磨く古文の指導 ―「枕草子」「伊勢物語」を中心に― 小白河八講の時空―読みの循環・歴史と文学の間―	東邦大付東邦中高 フェリス学院大	大塚 敏久 三田村 雅子				国語教育とは何か 「国語」を教育するとは 「国語」を挑発する 国語教育とは何であったのか (ほんだな)	大平浩哉 岡村達司 小森陽一 高野光男	
1997	1	190		宮澤賢治の作品における「学校」の諸相 ポルノグラフィ―とは何か―賢治テクニクの茂みへー	早稲田中高 早大	院生 永井 健一 高橋 世織			(論文) 「大鏡」兼通文・八巻増補本文の教材化について 国民科国語における音声言語教育 「国語」が「日本語」かという問題に関する一考察		勇晴美 大平浩哉 野山広	
	4	191		明治・大正期の漢文教育廃止論 論理的思考力を育成する授業の改善 国語科教育改革への提言	早大大学院 院生 早大大学院 院生 早大	石毛 慎一 池田 尚子 大平 浩哉	1997.3「早稲田大学国語教育研究第17集」発行	17	漢文の素読に対する調査報告 『大鏡』を教材とした研究授業の報告 寓意を讀む 「城の崎にて」の授業実践報告 人間関係の「松戸・自主夜間中学校」 (現場からの報告)	戦後への幻の架橋 多文化教育の視点から	石毛慎一 久恒二郎 石塚政吉 山崎真弓 佐野斉孝 石垣智博/利根川清/西村健	
	9	192	大会	短歌・俳句の教育実践 いのちと文学	錦城高 都留文科大学	沢 豊彦 田中 実						
	11	193		大正期の綴り方教授における題作と自作 国語教育における一つの虚妄 ―「生徒たちは本当に作文がらいか」ということ、ならびに「自 照作文」のこと―	桐蔭学園中高 武蔵野美大	渡部 洋一郎 佐野 斉孝				研修内容の検証にかえて 作品構造の解明を通して (現場からの報告)		石垣智博/利根川清/西村健
	1	194		最終講義 国語教育改革の課題	早大	大平 浩哉	1998.3「早稲田大学国語教育研究第18集」発行			国語教育改革の課題 (特集 表現の指導) 作文指導の理論と技術 かみあった議論を指導する方法の開発 「相互交流的なコミュニケーション」を重視した表現指導のありかた		大平浩哉 市毛勝雄 杉田知之 有元秀文 池田尚子
1998	4	195		漢文音読再考論―言語・文化への興味を求めて― 『故郷』(魯迅)という教材	帝京高 早大	院生 中村 佳文 堀 誠	1998～1999 学習指導要領改訂			いわゆるディベートの改善案として 小学校・中学校コミュニケーション調査の結果に基づいて	有元秀文 池田尚子	
	6	196	大会	教室の中の『平家物語』 自立・共生の能力とことばの教育	早大 早大	大津 雄一 田近 洵一		18	小論文の指導方法について ビデオを利用した表現指導 「読み手の(心)に届く(作文)」の指導 (論文)	年間の「国語表現」の授業を通して NHK朝の連続テレビ小説を題材として	吉田智美 横堀利明 真杉秀樹	
	10	197		「オツベルと象」を読む―先生は(オツベル)ですか― 「注文の多い料理店」の背景	桐蔭学園中高 武蔵野美大	細川 光洋 佐久間 保明	1998.9 教育総合研究室が教育総合研究所に			教材「注文の多い料理店」における主題指導の考察 課題集を生かした国語の授業 教材『おくのほそ道』の本文表記に関する考察 萩原朝太郎の音楽性 (現場からの報告)	読みの指導法改善に向けて 山下孝一 藤原マリ子 高野尚子 木村将弘	
	12	198		最終講義 「対話」ということ	早大	榎本 隆司						
1999	4	199		情報教育と漢字をめぐる問題 ディスカッションの基礎指導 ―「鳥達い鳩」(『説苑』)を教材として―	早大大学院 県立白岡高	院生 濱田 寛 熊谷 芳郎	1999.3「早稲田大学国語教育研究第19集」発行	19	表現指導の戦略 「相互交流的なコミュニケーション」を学ぶための、国語科の学習指導のあり方 「ますらをぶり」と「たをやめぶり」 漢詩教材「音聲」の理論と効用 明治・大正期の漢文科存廃論争とその意義 大正期国語学問と(国語教育)・(文学) 新制中学校発足期の古典教育	いかに表現させるか 有元秀文の 古典和歌の指導のために 授業多様化のための一試論 国体論の視点から 国定教科書と第二次「早稲田文学」を手掛かりに 『中等国語』の古文教材	町田守弘 有元秀文 土佐佳文 中村桂子 石毛慎一 岩崎亮 岩崎洋	
	6	200	大会	講演 「国語」って何 「小説」を読むことの可能性と不可能性 芥川龍之介『舞踏会』の表現	作家・早大客員教授 早大本庄高等学校 学習院女子中高	三田 誠広 曾原 祥隆 院生 石出 靖雄						
	12	202		最終講義 古典教材としての『万葉集』	早大	戸谷 高明						
	4	203		教材としての源氏物語 ―六条御息所と浮舟の比較を通して― 太宰治「魚眼記」をめぐる 漢詩を読んで思うこと ―教材理解のために―	早大大学院 早大大学院 鶴見大	院生 早乙女 利光 院生 菊地 薫 田口 暢徳	2000.3「早稲田大学国語教育研究第20集」発行	20	大平浩哉編『国語教育史に学ぶ』 拙稿『おくのほそ道』と古典教育 『市毛勝雄著作集』 一九九八年度活動記録		近田洵一 佐藤勝明 小泉尚子	
2000	6	204	大会	講演 身近にある漢文教材 ―碑文解読の手引き― 国語科における総合学習	早大名誉教授 早大大学院	院生 村山 吉廣 院生 浅見 優子						
	10	205		移行期の「総合的な学習」 ―公立中学における現状と課題―	川越第一中	伊藤 博						
	4	207		『おくのほそ道』の本文研究 ―古典教育の視点から― 子どものコミュニケーション意識 ―「話し」ことばの言語生活―	早大非常勤講師 吉祥女子中高・早大大学院	院生 藤原 マリ子 院生 黒川 孝広	2001.3「早稲田大学国語教育研究第21集」発行	21	「視点」「観念」を増やす指導 説明的文章教材の基本的指導過程 (現場からの報告)	授業「象を冷蔵庫に入れる方法」の実践報告 論理構造の把握から表現活動まで 和田朗/松本和博/根岸一成/横堀利明	黒川孝広 井上敬夫	
	6	208	大会	【第一部】 【第二部】 [パネルディスカッション] 古典と現代の接点	俳優 文京女子大学中高 早大大学院 早大大学院	幸田 弘子 講師 和智 潔 パネリスト 加藤 明子 パネリスト 早乙女 利光 パネリスト						
	10	209		明治以降における助動詞マイの使用をめぐる 教材研究 古代の神話伝説	早大大学院 早大	院生 中田 幸子 松本 直樹						
12	210		最終講義 これまでの国語教育、これからの国語教育	早大	市毛 勝雄							
2002	4	211		■中・高等教育における古典芸能教材の可能性 ―狂言DVD『野村万作・狂言でござる』『野村萬斎・狂言ワーク ショップ』を中心に― 古典芸能を教材とすることの意味 高等学校国語科における狂言の教材化について 狂言の可能性	早大 早大 早大	院生 竹本 幹夫 山崎 修史 野村 萬斎	2002.3「早稲田大学国語教育研究第22集」発行	22	石頭城によせる朝 耳で読む『目で聴くためのレッスン』 教室で読むということ 視座としての(笑い) (論文) 反復と一回性 「論議」指導の研究 コミュニケーション能力を育てるための手紙文教材 (現場からの報告)	劉禹錫「石頭城」詩の解をめぐって 朗読教育のために考えておきたいこと 「山月記」の実践を踏まえて ―二重読み・長崎明子 (論議)― 大宰治「魚眼記」論 その系統性と実践化の方向性	田口暢徳 金井景子 横堀利明 一之瀬明子 堀内雅人 光野公司郎 渡辺通子 嶋崎裕香	
	6	212	大会	講演 ことばにふれること ことばでふれること	演劇家	竹内 敏晴						
	10	213		特別講演 谷崎潤一郎「文章読本」論 ―声とエクリチュール― 日本における古典カノン形成とカリキュラムの歴史の変遷	早大大学院 院生 早大 早大	院生 徐 昌源 院生 ハルオ・シフネ						
	10	213		特別講演 日本における古典カノン形成とカリキュラムの歴史の変遷	早大大学院 院生	院生 ハルオ・シフネ						

年	月	期	大会	テーマ	所属等	発表者・講師	備考	号	タイトル	副題	著者				
2003	15	1	214	最終講義	戦後日本の文学教育 四十八年前の実践報告	早大	田近 洵一	2003.3「早稲田大学国語教育研究第23集」発行	(特集) 国語科教材を問い直す		大津雄一				
				最終講義	「文学史」講義の一瞥 —『成る女』と『自然』—	早大	杉野 要吉		教材としての「東下り」の可能性		兼繁信行				
	4	215		利き手の書字活動と脳の可塑性の関連について —書字における平面から立体への空間認知の移行という視点から—	東京書芸協会	川原 世雲	千里の馬は大食らい		轉念「雑説」の「食」字について		若見輝彦				
				利き手の書字活動と脳の可塑性の関連について —書字における平面から立体への空間認知の移行という視点から—	早大大学院	院生 渡辺 通子	つなかりの発見、要約をこぼす細部		国語科教材をめぐる覚書	高橋広満					
	6	216	大会	シンポジウム	■新しい学習指導要領における評価のあり方	早大	安彦 忠彦		中学校の近代国語教材を考える		田島伸夫				
						埼玉県立白岡高	院生 熊谷 芳郎		「国語」教材としての小説の可能性	「文学界」特集を考える	山田俊治				
	10	217			かぐや姫と帝の関係から読み解く『竹取物語』 —高校教科書における『竹取物語』原文採録箇所についての提案	早大大学院	院生 有馬 義貴		2003.12 学習指導要領一部改訂						
					特別講演	国語科の学力と評価	早大		浜本 純逸	2003.12「朗読の理論と実践の会」第1回研究会					
	2004	16	1	218	敬意表現をどう考えればよいか —高校生・大学生に対するアンケート調査をもとに—	早大大学院	院生 大野 敬代		2004.3「早稲田大学国語教育研究第24集」発行	23集	教材としての近世俳文	明治期の教科書をめぐって	鈴木秀一		
					国語科における教員養成・教師教育 —一日米の比較から—	早大学院	榎本 隆之				昭和前期国定国語教科書にみられる人間関係	第四期(サクラ館本)から第五期(アサと読本)へ	渡辺通子		
4		219		新教育課程における漢文教育 —総合学科としての試み—	静岡県立富岳館高	林 教子	国民学校国民科国語の教則伝達の問題	当時の批判から見る伝達構造の問題点			黒川孝広				
				漱石と読者の位置	早大	石原 千秋	(講演) これまでの国語教育、これからの国語教育				市毛勝雄				
6		220	大会	講演	おとなの言葉 子どもの言葉	作家	重松 清	(情報) 国語教科書目次目録データベース構築とその公開に際して							
						院生 近藤 聡	2003.12 学習指導要領一部改訂								
10		221			イラク自衛隊派遣について考える —高等学校国語科のメディアリテラシーの教育—	早大大学院	院生 近藤 聡	2003.12「朗読の理論と実践の会」第1回研究会							
					日記文学を教室で学ぶために	早大	福家 俊幸								
2005		17	1	222	初等教育における論理的思考力の育成	早大大学院	院生 深谷 幸恵	2005.3「早稲田大学国語教育研究第25集」発行			24集	(特集)「ことば」の教育を問い直す		内藤哲彦	
					教材としての枕草子「清涼殿の丑寅の隅」 —少人数クラスでの授業を通して—	都立国分寺高	勇 晴美					読み書きに生きたる文法を 小学生を対象に		福田美枝子	
	4	223		伊勢物語二十三段落 —「けこの器物に盛りける」という行為について—	学習院女子中高	院生 早乙女 利光	中学校における文法教育の問題		その改善をむけて	松本正憲					
				漢文なんかないという生徒のために —「漢文」と「国際理解」教育のあいだ—	神奈川県立新磯高	大川 育子	大学における文法教育の意義と課題			浦谷芳郎					
	6	224	大会	シンポジウム	■文学と国語教育 —今ふたたび鶴岡・漱石の教材的価値を問う—	聖学院大	院生 熊谷 芳郎		「日本語教育」における「文法」の教育を問い直す	(「言語=行為」観)に基づいて「日本語教育」の立場から					
						拓殖大	院生 佐野 正俊		(論文)						
	10	225		講演	読書推進運動「書評座談会」の歴史を学ぶ 『枕草子』第二百八十四段 「雪のいと高う降りたるを」を読む	杉並区立天沼中	院生 堀川 三恵子		古典に親しむ態度を育てるために	近世パロディ文芸の教材利用への提案		鈴木久美			
						元・聖学院大	院生 岡田 潔		自己表現の機構	島崎藤村「處女地」を視座とした表現指導の考察		永井聖剛			
	2006	18	1	226	古田拓の国語教育理念について —授業記録、授業批評の分析を中心に—	早大講師・早大大学院	院生 前田 健太郎		2006.11～2008.3「ことばの力GP」採択	25集		(特集)「国語教育の現状を考える」		阪田信子・勇晴美・伊藤博・岩崎淳・坂口京子・芳澤隆	
					老後小説「おひささんばあさん」論 —「舞姫」の可能的未来	青山学院女子短大講師	山口 徹					座談会「授業の現場から」			
4		227		『源氏物語』教材論 —「萩の上露」唱和にこめられた想いを読む— 『おくのほそ道』旅立考	埼玉県立上尾南高	院生 塩田 妙子	初めての異動を経験して				大屋敦全				
					早大	院生 宮脇 真彦	生徒の内面に触れる教科	国語力を考える際の一視点			田村景子				
6		228	大会	講演	私の古典教育法	作家・書誌学者	林 望	学校の目的				内田剛			
						院生 光野 公郎	2005.10「愛知県支部」第1回研究会								
10		229			論理的文章における新しい構成指導 —論証の構造を基本として—	栃木県教育委員会指導主事	院生 光野 公郎	学校の入り口と出口から考えること				相沢浩史			
					「要約」指導における問題点と改善案	早大	院生 佐渡島 紗織	授業の到達目標をどう設定するか				深谷幸恵			
12		230		ことばの力GP	■俳句・川柳で育てる「ことばの力」 読まれる喜び 言葉の力と川柳 句会という授業	院生 高柳 克弘	都立高校における学校改革	副校長の立場から				北林敬			
					院生 江畑 哲男	教育課程における漢文教育	総合学科としての試み	林教子							
2007	19	4	231	ことばの力GP	■漢文教育の内と外 漢文はなぜ国語なのだろうか? 中国における漢文教育 —上海市内高校の視察をふまえて—	早大	院生 内山 精也	2007.3「早稲田大学国語教育研究第27集」発行	26集	(特集)「国語教育改革への提言」		大平浩哉			
					「断腸」という語 —菅原道真「九月十日」詩の解釈をめぐって—	早大	院生 堀 誠			座談会「国語教育改革への提言」	教育課程改訂に向けて	町田守弘・稲見得則・榎本隆之・寺崎賢一			
	6	232	大会	ことばの力GP	■「読み」の授業を考える —言語技術教育、一読総合法、単元学習	聖学院大	院生 熊谷 芳郎			座談会へのコメント	阪田信子・田島伸夫・永井健一・中村良衛・浜本純逸				
					■「読み」の授業を考える —言語技術教育の立場から —読総合法の立場から —国語科総合単元学習の立場から	練馬区立開進第一中 板橋区立上板橋第二中 同志社大	院生 井上 敬夫 院生 福田 美枝子 院生 遠藤 瑛子			(論文) 中高一貫校における現代文の授業	「中だるみ」の生徒を引きつける戦略	大貫真弘			
	10	233		■第一回学生会 員研究発表会	国語教育における学習者の実態を探る —「中学生・高校生の言語活動と言語生活に関する意識調査」から—	修士課程2年	院生 遠藤 史博			(実践報告)					
					季節と季節感—芭蕉連句を中心に— 次世代に伝える—司馬史観・大佛史観と読者達— 『女給』論—広津和郎における女性表象の問題— 教材研究「教蔵最期」 文学史教材としての『源氏物語』「絵合」巻	修士課程2年 博士後期課程1年 博士後期課程1年 博士後期課程2年 博士後期課程3年	院生 野村 亞住 院生 瀧谷 真紀 院生 中沢 知史 院生 菊野 雅之 院生 有馬 義貴			教材としての『伊勢物語』二十三段落 オンデマンドシステムを活用した「国語科教育法」 (情報) 早稲田大学国際教養学部発足したライティング・センターの運営と指導		早乙女利光 榎本隆之 佐渡島紗織			
	12	234		第一部 基調報告	■世界の国語教育 —アメリカ、フィンランド、中国、韓国、そして日本	早大	院生 金井 景子			高等学校現場における電子辞書		工藤雅史			
					■世界の国語教育 —フィンランド	早大学院	院生 榎本 隆之			日日雑感		根岸一成			
	2008	20	4	235	ことばの力GP	戦後新教育における国語学力の構造 —石橋勝治実践と香川坂出プランの検討—	常葉学園大			院生 坂口 京子	2008.3「早稲田大学国語教育研究第28集」発行	27集	「卵形のおもちゃ」は手放さないか		高山美佐
						ことばの移り変わり —変わるものと変わらないもの—	早大			院生 小林 賢次			(新刊一覽)		
6		236	大会	講演	豊かな語彙力を目指す授業創り —二文字熟語の語構成をめぐって—	早大大学院	院生 李 軍	高専現場における電子辞書		工藤雅史					
					日本の漢詩	全国漢文教育学会会長	院生 石川 忠久	「異空間」? 便り		掛井みち恵					
11		237		■第二回学生会 員研究発表会	永井荷風・『雨瀟瀟』の呼び寄せるもの —芥川・谷崎の(小説の)論争をめぐって—	修士課程3年	院生 岸川 俊太郎	「異空間」? 便り		掛井みち恵					
					談話における格助詞「に」の省略について 中学校国語科における読解指導を活かした読書指導の授業構想	博士後期課程2年 修士課程2年	院生 菊野 紀子 院生 堀 佑史	自分にしかできない授業を目指して		坂本智美					
12		238			「悲しみ」の歌い方—詩の授業で中也を読む— 『西鶴諸国はなし』巻二の五・『夢路の風車』における物語空間についての分析	博士後期課程1年 博士後期課程3年	院生 伊藤 優子 院生 水上 雄亮	高校の現場から		内藤剛					
					国語科で「ジョーク」を扱う —柔軟な発想を養うために—	立命館中高	院生 内田 剛	土佐幸短歌のころみ		細川光洋					
2009		21	4	239	高度経済成長下の古典教育 —「古典」科目の独立と益田勝実古典教育論— 阿仏尼再考	早大	院生 幸田 国広	2009.3「早稲田大学国語教育研究第29集」発行	28集	近代短歌の授業実践			今の自分を語る学習として	坂本智美	
						ことばの「表情」を実感させるために 「私」の「ころ」チャート 「同世代の目」 古文奮闘									
	6	240	大会	シンポジウム	■伝統文化の教育とは何か —新『学習指導要領』をめぐるシンポジウム	聖学院大 文部科学省教科調査官 春日部市立武里南小 千代田区立麹町中 都留文科大	院生 熊谷 芳郎 院生 富山 哲也 院生 深谷 幸恵 院生 酒井 雅子 院生 牛山 恵			国民学校国民科国語における教育理念の継承について	明石女子師範附属国民学校の場合	黒川孝広			
					■第三回学生会 員研究発表会	修士課程1年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年	院生 伊藤 かおり 院生 水谷 陽子 院生 鴨宮 美潮 院生 矢部 富仁子 院生 小野寺 伸一郎			評論文にさまざまな授業の工夫	生徒が主体的に教材と向きあえるために	野村耕一郎			
	10	241		■第三回学生会 員研究発表会	女たちのネットワーク『明暗』論 『源氏物語』六条御息所の視覚表現化における「型」としての蜘蛛の巣文様	修士課程1年 修士課程2年	院生 伊藤 かおり 院生 水谷 陽子			国民学校国民科国語における教育理念の継承について	明石女子師範附属国民学校の場合	黒川孝広			
					院政期の音と声—平家物語の世界から— 太宰治『右大臣実朝』論 『宗祇語国物語』に見られる撰集抄の影響 —詩歌利用を中心に—	修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年	院生 鴨宮 美潮 院生 矢部 富仁子 院生 小野寺 伸一郎			評論文にさまざまな授業の工夫	生徒が主体的に教材と向きあえるために	野村耕一郎			
	10	242			高等学校国語科における地域教材を活用した授業構想 ジェンダーを越境する女—『好色一代女』論 「自己療養」から他者のための物語へ —村上春樹『国境の南、太陽の西』論	修士課程2年 修士課程2年 博士後期課程1年	院生 齋藤 法明 院生 大石 あずさ 院生 川崎 恭平			現代漢文の授業実践	今の自分を語る学習として	坂本智美			
					院生 伊藤 かおり	2008.4 大学院教職研究科開設									
	10	243			文学教育のアクチュアリティ —村上春樹『アインロンのある風景』を読む—	都立産業技術高専	院生 高野 光男			2008~2009 学習指導要領改訂					
					2008.4 教育学部教育学科初等教育学専攻開設										
10	244			文学教育のアクチュアリティ —村上春樹『アインロンのある風景』を読む—	都立産業技術高専	院生 高野 光男	2008~2009 学習指導要領改訂								
				2008.4 教育学部教育学科初等教育学専攻開設											

年	月	期大会 開催	テーマ	所属等	発表者・講師	備考	号	タイトル	副題	著者
2010	1	242	写生文の一本脈—子規、血骨、そして西遊— マルチリテラシーに見る母語教育改革への可能性	早大学院 日体大女子短大部	佐々木 基成 奥泉 香			特集「早稲田の国語教育」 (論文) 早稲田大学における国語教育の足跡を辿る これからの国語教育をどうしたらいいか 国語教育者としての川副國基 鈴木静香に関する覚え書 「読者」という視点 白石大二言語教育論の今日的意義 昭和戦前期中学校国語科「講読」における解釈法の探究 (これまでとこれから)		町田守弘 有元秀文 古家敏亮 高野光男 大塚敏久 坂口京子 浜本純逸
2010	4	243	教科書史の空白—リテラシー史の視点から— 文学教材の扱い方についての一考察 —宮沢賢治「オウパルと象」を例として—	早大	和野 敦彦 佐野 正俊	2010.3「早稲田大学国語教育研究第30集」発行				
	6	244	大会 シンポジウム ■新学習指導要領を見据えた「言語活動」	早大本庄高等学校 横浜国立大 開成中高 学習院中等科	吉田 茂 高木 まさき 葛西 太郎 岩崎 淳	司会・コーディネーター パネリスト パネリスト パネリスト				
	11	245	■第四回学生会 員研究発表会	『更級日記』孝標女の結婚と父子関係 鬼貫の作風に見る「誠」 『大東世語』における徳 談話における方格無助詞文に関する考察 初期「新潮合評会」と発話の記録 —佐藤春夫と広津和郎を中心に— メタフィクションを生成する語り—『彼岸過迄』論 授業分析が拓く「読み」の可能性 —交流型授業における形成過程を探る—	修士課程2年 修士課程2年 博士後期課程1年 博士後期課程4年 博士後期課程5年 修士課程2年 博士後期課程2年	院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生	富澤 祥子 村上 真理子 石本 波留子 荻宿 紀子 酒井 浩介 土屋 慶文 三輪 彩子			榎本隆司 榎本隆明 中村佳文 福田美枝子 小塩卓哉 田島伸夫 奥村剛士 水田正博 伊藤博 野中哲照 黒川孝広 齋藤有子 能地克宣 丁允英 丁秋娜
			講演	言語生活と言語文化	早大	桑原 隆				
2011	1	246	「舞姫」への挑戦—生徒の実態に合わせて— 「風信帖」の意義と教育における可能性	都立練馬高 早大非常勤講師	中里 有希 綾部 宏行	2011.3「早稲田大学国語教育研究第31集」発行				
2011	4	247	中止			東日本大震災の影響のため中止				
	6	248	大会 シンポジウム ■高度情報化時代の国語教育 —新聞は有効な教材になり得るか	早大 朝日新聞編集委員 都立両国高 神奈川県立愛川高	町田 守弘 氏岡 真弓 近藤 聡 星野 智也	司会・コーディネーター シンポジスト シンポジスト シンポジスト				
	12	249	■第五回学生会 員研究発表会	『古事記』における反乱伝承 —木梨之輕太子を中心に— 『萬葉集』の成立年代について 仏教説話における動物捨身譚の形成 『宝鑑』における俳諧論 貨幣の翻案物語「十銭銀貨の来歴談」 —坪内雄蔵『国語読本』— 「私」を語る資格 —夏目漱石『彼岸過迄』論 三島由紀夫のサド観をさぐる —式場隆三郎との関わりを中心に— 江戸の浮世草子 —石川流直を中心として— 宮沢賢治「雨ニモマケズ」の授業実践 —合巻曲を用いて— 日中古典文学における「牛」像 江戸後期から明治20年代における「見る」の意味を表す 尊敬表現—「ご覧なされる」「ごろうじる」「お見なされる」を中心に—	修士課程2年 修士課程2年 修士課程1年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 博士後期課程3年 修士課程1年 修士課程2年 博士後期課程2年 博士後期課程2年	院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生	長澤 祥子 柴田 郁 及川 麗菜 小山 樹 間嶋 剛 吉田 詩織 冉 小嬢 大友 雄輔 菊池 春菜 趙 倩倩 山田 里奈			榎本隆司 榎本隆明 中村佳文 福田美枝子 小塩卓哉 田島伸夫 奥村剛士 水田正博 伊藤博 野中哲照 黒川孝広 齋藤有子 能地克宣 丁允英 丁秋娜 中島敦「山月記」考 堀 誠 石田徹也の作品を教材として 佐々木基成 辻田豪史 岸圭介 松村久幸 田邊一奈 築山巴香 服部有希 二〇〇九年度活動報告 特集「文学・語学研究と国語教育の連携を探る」 (論文) 国語教育と近代文学研究のあいだ 『文学』(一九六〇)連続特集における文学教育論の意義 伊勢物語初段に関する三つの問題 俳句の鑑賞指導と「切れ字」 (現場から) 紅野敏郎先生から学んだこと 大学を遠く離れて ゆりかごから一緒に仲間たちと 古典教育雑考 (新刊一覽) (新刊紹介) 奥泉香・芹田浩・金子泰子・小林雄佑・内田剛・高山実佐・橋本麻美・菊野雅之 二〇一〇年度活動報告
2012	1	250	250回記念例会 ■研究会・支部の現状と課題 「読み」をささげるリアリティ —「羅生門」・「山月記」の実践を通して— 生徒の興味・関心を誘う古典の授業を ICT コンテンツも使ってみたら? —古典教育研究会の最近の報告の中から— (教室)における声の自覚 —実践としての理解・表現・コミュニケーション— 早大国語教育学会愛知県支部の歩みと展望	都立戸山高 都立上水高	横堀 利明 勇 晴美	2012.3「早稲田大学国語教育研究第32集」発行				
	4	251	国語教育の復興、文学教育の復興—震災を契機として— 国語教育が柳田國男から学ぶこと	いわき明星大 東北学院大	能地 克宣 渡辺 通子					
	6	252	大会 シンポジウム ■新教科書・新教材—小・中学校国語科の場合	明星学園中高 文部科学省教科書調査官 早実初等部 お茶の水女子大附属中	堀内 雅人 小原 俊 岸 圭介 赤我部 義則	司会 提案者 提案者				
	10	253	■第六回学生会 員研究発表会	『古事記』「穀物起源神話」におけるスサノヲ像 『讀史紀』「堀河天皇の崩御をめぐって」 歌人源通具 —給食期の歌について— 中等教育課程における説話文学教材の位置づけ 『野傾友三味線』にみる団水の創作技法 —巻二の—「高野六十那智八十」を中心に— 水クサイの語史 —水ッポイとの共存過程にみる意味の分担— 『古鏡記』における鏡と月のイメージについて 「明治期」の小説作法に見る「小説」像 梶井基次郎と北川冬彦「闇の絵巻」に至るまで 岸田國士における「サウラス」 —『女人道』論— 夏巧専訳芥川龍之介『支那遊記』について —中国における影響を中心に— 高等学校教科書における詩単元の系統性 —「一つのメルヘン」「サーカス」を手掛かりに—	修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 博士後期課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 博士後期課程1年 修士課程2年	院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生	鈴木 琢麻 青山 紗祐美 米田 有里 八木澤 瑞菜 近藤 仁美 池上 尚 仲川 泰博 森田 三歩 糸川 歩 服部 司 顔 淑蘭 永瀬 恵子			財前謙 土佐秀里 永井健一 金子守 伊藤博 内田剛 田中宏幸 三輪彩子 岩宿紀子 小原俊 寺崎賢一 酒井雅子 鈴木秀一 鈴木直也 高野浩 (新刊一覽) (新刊紹介) 米田有里・伊藤かおり・黒川孝広・山田里奈・近藤聡・小菅健一・金子泰子・渡瀬淳子 二〇一一年度活動報告
2013	1	254	トレンダから定番へ —「羅生門」教材研究の空席—	東洋大	幸田 国広	2013.3「早稲田大学国語教育研究第33集」発行				
2013	4	255	講演 物語教材の扱いをめぐって 古文定番教材継承	都留文科大名教授 早大本庄高等学校 早大名教授	関口 安義 吉田 茂 中野 幸一					
	6	256	大会 学会設立50周年 記念大会 シンポジウム 国語教育のこれまでとこれから —学会設立50周年からの展望—	早大 早大名教授 東京学芸大名教授 学習院大	町田 守弘 東郷 克美 田近 洵一 岩崎 淳	司会 シンポジスト シンポジスト シンポジスト				
	11	257	■第七回学生会 員研究発表会	『古事記』天孫降臨神話の表現と構想 『蜻蛉日記』における道綱母の(中心)への欲求とその表現方法 『平家物語』諸本の形態と享受について 複製贈答歌について 森川許六の「取り合せ論」について 江戸後期から明治20年代までにおける尊敬表現「お(ご)〜だ」について 大江匡衡「九月辰日傳北野廟各分一字」に見える菅原道真像 ライトノベルにおける可塑性 —東浩紀とカトリック・マラブー— 辺境から越境へ—鷲沢萌の語り— 小栗風葉と徳田秋声—「世間師」と『新世帯』— 大正期宮本武蔵—雑誌『講談倶楽部』内での書き手と読者の変化— 古典教育における音声言語指導の評価方法—中学生を対象とした『枕草子』・『平家物語』	修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程1年 博士後期課程4年 博士後期課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年 修士課程2年	院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生 院生	折原 佑実 小松 三希子 藤田 加世子 栗田 雅子 小澤 恵結 山田 里奈 呂 天雯 國部 友弘 康 潤伊 滝澤 真帆 大熊 達也 杉澤 真梨子			榎本隆司 (シンポジウム) 早稲田大学国語教育学会前史一瞥 言語活動主義と言語能力主義—その歴史上の一断面— 国語教育と私 豊かに「私教」する教室へ (新刊一覽) (新刊紹介) 大友雄輔・芹田浩・高野浩・岡田和樹・栗田雅子・林圭介・酒井雅子 二〇一二年度活動報告 (特集) 学会五〇周年記念 国語教育のこれまでとこれから (講演) 一語一会 (シンポジウム) 早稲田大学国語教育学会前史一瞥 言語活動主義と言語能力主義—その歴史上の一断面— 国語教育と私 豊かに「私教」する教室へ (新刊一覽) (新刊紹介) 大友雄輔・芹田浩・高野浩・岡田和樹・栗田雅子・林圭介・酒井雅子 二〇一二年度活動報告 (特集) 学会五〇周年記念 国語教育のこれまでとこれから (講演) 一語一会 (シンポジウム) 早稲田大学国語教育学会前史一瞥 言語活動主義と言語能力主義—その歴史上の一断面— 国語教育と私 豊かに「私教」する教室へ (新刊一覽) (新刊紹介) 大友雄輔・芹田浩・高野浩・岡田和樹・栗田雅子・林圭介・酒井雅子 二〇一二年度活動報告
2014	1	258	講演 アーティストとの協働で作る言語文化創造の授業 —古典和歌を素材とする新たな物語の創作・上演を中心— 日本語についての独善や誤解 —教育・研究以前の問題—	東京学芸大学附属高 等学校	浅田 孝紀 岩淵 匡	2014.3「早稲田大学国語教育研究第34集」発行				

凡例

データの作成にあたっては、平成6年・8年の「会員名簿」巻末の「例会・大会記録」、および『早稲田大学国語教育研究』20集記載の「例会・大会記録」を、機関誌「早稲田大学国語教育学会会報」（1～17号）・『早稲田大学国語教育研究』（1～33集）に掲載されている活動記録、また本CD所収の例大会案内ハガキ、事務局保存資料・事務局会議資料・編集会議資料と照合した。

原則として上記典拠の記述をそのまま使用しているが、表記揺れに際して、一部改めたものもある。

所属等の欄には、発表当時の所属・肩書きを記している。表記は上記典拠にしたがい、大学を「～大」、短期大学を「短大」、高等学校を「高」、中学校を「中」、中学高校を「中高」などと省略して記した。学校名の主な略称は以下の通りである。
「早大」…早稲田大学／「早大大学院」…早稲田大学大学院院生／「早大学院」…早稲田大学高等学院／「早実」…早稲田実業学校／「早稲田高」…早稲田中学高等学校

2007年以降開催の「学生会員研究発表会」の発表者は、特に記述がない限り、早稲田大学教育学研究科所属の院生によって構成される。そのため、他の記述と異なり、学年を記している。

なお、2013年6月22日開催の学会設立50周年記念大会において、「50周年記念資料集」として本一覧を配布した。それ以後、CD作成にあたり、事務局にてデータを精査し、加筆修正を行っている。その際、誤表記に関しては、上記典拠により適宜改めた。

【付記】

本CD所収のデータは、早稲田大学教育総合研究所研究部会（B-3）「早稲田大学における国語教育の研究（代表：2010堀誠・2011町田守弘）（2010～2011）の研究成果の一部である。教育総合研究所所長堀誠氏よりデータの提供をうけた。なお、例大会一覧は、大貫眞弘・松本直樹・林教子著「早稲田大学における「国語教育」研究史の概観—早稲田大学国語教育学会の活動を通して—」（早稲田大学教育総合研究所紀要『早稲田教育評論』27巻第1号、P25～47、2013年3月31日）の第一章、大貫眞弘「早稲田大学国語教育学会 例会・大会の記録」（P25～33）を元にしたものである。

教育総合研究所より提供されたデータは、以下の方々の尽力により作成されたものである。早稲田大学教育・総合科学学術院教授堀誠氏、および、研究室所属の院生5名、橘和久氏・丹治麻里子氏・超倩倩氏・齋藤彰子氏・仲川泰博氏。ここに記して感謝申し上げる。

早稲田大学国語教育学会設立五〇周年記念CD
CDジャケット作者紹介

題字：榎本隆司（えのもと・たかし）

1928年4月8日生まれ。早稲田大学名誉教授・名誉評議員。日本近代文学専攻。国語教育関係の主な編・著書に『作文教室』（新塔社、1989.9）『ことばの世紀 新国語教育研究と実践』（明治書院1999.3）『はじめて学ぶ日本文学史』（ミネルヴァ書房2010.5）などがある。

ジャケットデザイン：野村正則（のむら・まさのり）

1949年8月1日生まれ。別府大学短期大学部教授。洋画家（春陽会会員）。代表作にアクリル画「路上の詩・轍」（第三回小磯良平大賞展佳作1996.12）「路上の詩・空・田川」（第七回英展大賞1998.6、田川市美術館蔵）「路上の詩・Dioxine」（第八回青木繁記念大賞公募展優秀賞1999.3）などがある。